愛知教育大学教職キャリアセンター紀要第7号, pp. 191～198, March, 2022

（研究ノート）

小学校及び中学校音楽科の学習評価作成時の留意点 －文部科学省の資料整理に基づいて－

新山王　政和*

*音楽教育講座

Learning Evaluation of Music Classes in Elementary and Junior high school: Based on documents of the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

Masakazu SHINZANO*

Department of Music Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

Keywords：音楽科授業　学習評価

前回「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、文科省及び国立教育政策研究所の資料に基づいて整理した。これを受けて音楽科の学習評価の基本原則に関する問合わせがあったことから、「知識及び技能」「思考・判断・表現」について、各領域別に整理した。これを参考にしながら授業計画や単元の内容、児童・生徒の実態に合わせてアレンジしてほしい。なお教育目標に合わせるため、便宜的に「知識・技能」は「知識の部分」と「技能の部分」に分けて記している。

Ⅰ　評価規準の基本構造

１　評価規準作成上の留意点

(1)評価規準は、目標や内容に照らして学習状況を評価する目標準拠評価を基本とする。

(2)指導と評価の一体化とは、例えば授業で「歌詞が表す気持ちを想像して歌おう」と指導しておきながら「音が取れていない」と評価することのないよう、教えることと評価することとを結びつけることである。

(3)評価の基本構造は次のとおりである。

①「知識・技能」の知識の部分の原則

A表現及びB鑑賞：○○について理解している。

②「知識・技能」の技能の部分の原則

A表現のみ：○○の技能を身に付けて表している。

③「思考・判断・表現」の原則

A表現：○○について考え、どのように表すかについて思いや意図をもっている。

B鑑賞：○○について考えるとともに、音楽を味わって聴いている。

(4)「主体的に学習に取り組む態度」の評価の留意点

①「親しむことができる」は設定しない。

②「楽しみながら」は評価の対象に含めない。

③評価の対象は「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」に向かって粘り強く、自己学習調整能力。

２　小学校及び中学校の〔共通事項〕観点の趣旨

(1)〔共通事項〕は何をどのように評価するのか?

①「知識」の観点には書かず、音楽における働きと関わらせて理解させる。その際、用語や言葉だけを丸暗記させることなく音や音楽と結びつけて理解させる。

②「思考・判断・表現」において要素との関わりの中で捉えさせる。その際、要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えさせる。

③上記②に加えて、A表現では「どのように表すかについて思いや意図をもっているかどうか」を、B鑑賞では「自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いているかどうか」を評価する。

(2)中学校における〔共通事項〕の活動例

文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説音楽編』（教育芸術社、2018）において紹介されている活動例を記しておく。

「第１学年の学習で、『ff は“とても強く”という意味で、力強さや大きな喜びなどを表すことができる』と理解していた生徒が、さらに詳細な様相に着目し、速度やテクスチュアなどとの関わりを意識しながら知覚・感受することによって、『ff は、力強さや大きな喜びだけではなく、逆に大きな悲しみや絶望を表すこともできる』といったような理解に至ることが考えられる」p. 90 ア

(3)小学校における〔共通事項〕の活動例

文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告

示）解説音楽編』（東洋館出版社、2018）において紹介されている活動例を記しておく。
「『だんだん近づいてきた後、遠ざかっていく感じがしたのは、だんだん音が強くなった後に、だんだん弱くなったから』と捉えるなど、強弱の変化とその働きが生み出すよさや面白さ、美しさとの関係を考えることである」p. 52 ア
「『だんだん忙しい感じになってきたのに、急にのんびりした感じに変わったのは、速度がだんだん速くなった後に、急に速度が遅くなったから』と捉えるなど、速度の変化とその働きが生み出すよさや面白さ、美しさとの関係を考えることである。」p. 81 ア
「強弱や速度の特徴を客観的に聴き取るだけでなく、『なんだか追いかけられているような感じがしたのは、だんだん強くなるのと同時にだんだん速くなっているから』と捉えるなど、強弱や速度の変化と、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさとの関わりについて考えることである。」p. 110 ア

３　「主体的に学習に取り組む態度」観点の趣旨

(1)何をどのように評価するのか？
①観点の趣旨：その授業で取り上げる要素に対して主体的・協働的に活動に取り組もうとしているのか。この場合の活動とは、「ア思考力、判断力、表現力等」「イ知識」「ウ技能」の全ての学習活動を意味する。
②その授業で取りあげる要素が「音色」の例
　音色に関心をもち、主体的・協働的に器楽の活動へ粘り強く取り組もうとしている。
　その授業で取りあげる要素が「速度」の例
　速度に関心をもち、他者の意見を取り入れて試行錯誤（または調整）しながら、創作の活動に主体的・協働的に取り組もうとしている。
(2)主体的に学習に取り組む態度の評価ポイント
①「知識及び技能」を獲得したり「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしているか？
②自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしているか？
③「音や音楽に親しむことができる」は評価規準として設定しない。
④「楽しみながら」は評価規準として設定しない。
(3)評価を行うタイミング
①観点別の学習状況の評価は毎時間行うものではなく、単元や題材のまとまり、時間のまとまりなど、活動の成果を把握できる段階で実施する。
②評価方法は、演奏（録音）、作品（録音）、ノートやメモ、ワークシート、プレゼン意見発表、グループ活動の中での発言自己評価や相互評価、ポートフォリオ等、多様な評価方法を組み合わせて行い、「粘り強く取り組もうとしているか？」＆「自らの学習を調整しながら取り組んでいるか？」を評価する。

Ⅱ　中学校音楽科の評価観点の原則

１　Ａ表現（歌唱）の場合

(1) A表現（歌唱）「知識及び技能」の知識の部分
①観点の趣旨（学年目標「知識及び技能」の前半）
　曲想と音楽の構造（中 2･3 の場合：～や背景）などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。
②評価規準：事項イの（ア）（イ）のいずれか又は両方について理解する。
（ア）曲想と音楽の構造や歌詞の内容（中 2･3 の場合：及び曲の背景）との関わりについて理解している。
（イ）声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。
③A表現（歌唱）「イ知識」の活動例
「そう感じたのは、四分音符や二分音符が多く、隣り合った音に移っていく、なだらかな旋律が繰り返されているからだ。」p. 39 イ（ア）
「四分音符や二分音符が多く、隣り合った音に移っていく、なだらかな旋律が繰り返されていることによって、優しく穏やかな感じが生み出され、人の優しさを表している歌詞の内容が伝わりやすくなっている。」p. 39 イ（ア）
(2) A表現（歌唱）「知識及び技能」の技能の部分
①観点の趣旨（学年目標「知識及び技能」の後半）
　中１の場合：創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱の技能を身に付け、歌唱で表している。
②評価規準：事項ウの（ア）（イ）のいずれか又は両方の技能を身に付ける。
（ア）創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。
（イ）創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。
③A表現（歌唱）「ウ技能」の活動例
「フレーズの最後の音を優しい感じにするために、デクレシェンドしたい。」p. 41 ウ（ア）
「ここは自分のパートが主旋律なので、他のパートより少し大きめの声で歌おう。」p. 42 ウ（イ）
「伴奏は四分音符が連続しているので、それを聴きながら歌えば速さが合わせられそうだ。」p. 42 ウ（イ）
「力強さを感じるこの歌の歌詞は、作詞者が中学生に向けて強く語りかける気持ちで書いた詩なので、一つ一つの言葉を大切にしながら、言葉が一つ一つ切れてしまわないように、フレーズのまとまりを大切にして歌いたい。」p. 71 ウ（ア）
「主旋律を歌うソプラノパートの声を聴きながら、その声量に合わせてバスパートを歌う自分の声量を大き

くすれば、響きに安定感が出るのではないか。」p. 72 ウ（イ）
「主旋律を歌うアルトパートの声を聴きながら、その音色に合わせて柔らかな声が出せるような発声を工夫してみよう。」p. 72 ウ（イ）
(3) A表現（歌唱）「思考･判断･表現」
①観点の趣旨
要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え(共通事項ア)、どのように歌うかについて(中 2･3 の場合：曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて)思いや意図をもっている。（または創意工夫している）
②その授業で取りあげる要素が「音色」「強弱」の例
音色と強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの役割について考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（または歌唱表現を創意工夫している）
③A表現（歌唱）「ア思考力、判断力、表現力等」の活動例
「優しい感じにするために、柔らかい声で、旋律の上がり下がりの動きに合わせて自然な強弱変化を付けて歌いたい。」p. 38 ア
「広がりが感じられるように、静かに始まり、徐々に盛り上がっていくように歌いたい」p. 38 ア
「静かな始まりの中にも力強さが欲しいので、言葉の発音をはっきりさせて、一つ一つの言葉を訴えかけるように、徐々にクレシェンドして歌いたい。」p. 38 ア

２　A表現（器楽）の場合

(1) A表現（器楽）「知識及び技能」の知識の部分
①観点の趣旨（学年目標「知識及び技能」の前半）
曲想と音楽の構造（中 2･3 の場合：～や背景)などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。
②評価規準：事項イの(ア)(イ)のいずれか又は両方について理解する。
(ア)曲想と音楽の構造（中 2･3 の場合：～や曲の背景)との関わりについて理解している。
(イ)楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。
③A表現（器楽）「イ知識」の活動例
「(この曲は生き生きとした感じがする）そう感じたのは、主旋律にシンコペーションのリズムが繰り返されているからだ」p. 45 イ（ア）
(2) A表現（器楽）「知識及び技能」の技能の部分
①観点の趣旨（学年目標「知識及び技能」の後半）
中１の場合：創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な器楽の技能を身に付けて、器楽で表している。
②評価規準：事項ウの(ア)(イ)のいずれか又は両方の技能を身に付ける。
(ア)創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。
(イ)創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付け、器楽で表している。
③A表現（器楽）「ウ技能」の活動例
「この旋律は、他の声部から主旋律を受け継いで演奏する部分なので、主旋律のつながりが自然になるように演奏したい」p. 47 ウ（イ）
「軽快さを感じるこの曲は、踊りの曲として作曲された曲なので、アクセントが付いている音を響きのある音で弾き、踊りやすい速度で踊りの動きを止めないように演奏したい」p. 76 ウ（ア）
「主旋律の音色を聴きながら、その音色に合わせて柔らかい音色で演奏した方が全体のバランスがよくなるのではないか」p. 77 ウ（イ）
「打楽器パートが表現しているクレシェンドと accel. が曲のイメージに合っていたので、打楽器パートをよく聴きながら、音量と速度の変化のさせ方を合わせられるようにしよう」p. 77 ウ（イ）
(3) A表現（器楽）「思考･判断･表現」
①観点の趣旨
要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え(共通事項ア)、どのように演奏するかについて(中 2･3 の場合：曲にふさわしい器楽表現としてどのように表すかについて)思いや意図をもっている。（または創意工夫している）
②その授業で取りあげる要素が「速度」の例
速度の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの役割について考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。（または器楽表現を創意工夫している）
③A表現（器楽）「ア思考力、判断力、表現力等」の活動例
「軽快さがあり、はずんだ感じにするために、音の長さを短めにしたり、どの音域でも明瞭に発音できるようにしたりして演奏したい。」p. 44 ア
「全体的には滑らかな感じだけれど、第３フレーズには歯切れのよさを感じるところがあるので、音の長さに変化を付けて、その違いが表現できるように演奏したい。」p. 44 ア

３　A表現（創作）の場合

(1) A表現（創作）「知識及び技能」の知識の部分

①観点の趣旨（学年目標「知識及び技能」の前半）
曲想と音楽の構造（中 2･3 の場合：～や背景）などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。
②評価規準：事項イの(ア)(イ)のいずれか又は両方について理解する。
(ア)（中 2･3 音階や言葉などの特徴及び）音のつながり方の特徴について理解している。
(イ)音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解している。
(2)A表現（創作）「知識及び技能」の技能の部分
①観点の趣旨（学年目標「知識及び技能」の後半）
創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な創作の技能を身に付け、創作で表している。
②評価規準：事項ウの技能を身に付ける。
創意工夫を生かした表現で旋律や音楽を作るために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。
③中学校［創作］ウ技能に関するポイント
「２小節の長さでつくったハ長調の動機を、反復、変化させたり、重ねたりするなどして、２本のアルトリコーダーのためのまとまりのある音楽をつくること」という課題や条件に沿って旋律をつくる際の技能は次のように考えることができる。［①ハ長調の音階から音を選んで、ハ長調の特徴を生かした２小節の動機をつくっている。②まとまりある感じを生み出すための根拠に基づいて、つくった動機を反復、変化させたり、重ねたりして、音楽をつくっている。③２本のアルトリコーダーで演奏することのできる音楽をつくっている。］p. 82 ウ
(3)A表現（創作）「思考･判断･表現」
①観点の趣旨
要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え(共通事項ア)、どのように音楽をつくるかについて(中 2･3 の場合：まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて)思いや意図をもっている。
②その授業で取りあげる要素が「構成」の例
構成（反復）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの役割について考え、どのように音を音楽にしていくかについて思いや意図をもっている。（または創作表現を創意工夫している）
③A表現（創作）「ア思考力、判断力、表現力等」の活動例
「落ち着きのある穏やかな旋律にするために、四分音符や二分音符を多めに使って旋律をつくりたい」p. 49 ア
「楽しく元気な雰囲気を感じる旋律にするために、付点音符のあるリズムを使ってつくりたい」p. 49 ア→（深まったり新たな思いや意図となったりする）「付点音符のあるリズムを使っても、音の高さの変化が小さいと楽しく元気な雰囲気があまり感じられないので、音をつなげるとき、音の高さの変化の大きい部分も入れてつくりたい」p. 49 ア

４　B鑑賞の場合

(1)B鑑賞「知識」
①観点の趣旨（学年目標「知識及び技能」の前半）
曲想と音楽の構造（中 2･3 の場合：～や背景）などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。
②評価規準：事項イの(ア)(イ)(ウ)から一つ以上について理解する。
(ア)曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。
(イ)音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解している。
(ウ)我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と(中 2･3 の場合：及び諸外国の様々な音楽の特徴と)、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。
③B鑑賞　評価のポイント
言葉で説明する際には、対象となる音楽が、自分にとってどのような価値があるのかといった評価を、根拠をもって述べることが重要になる。そのためには、次に示す①から④までを明らかにできるように指導することが大切である。［①音楽を形づくっている要素や音楽の構造←生徒の考えの根拠、②特質や雰囲気及び曲想←生徒の考えの根拠、③①と②との関わり←生徒の考えの根拠、④気に入ったところ、他者に紹介したいところなど自分にとってどのような価値があるのかといった評価←生徒の曲や演奏に対する価値づけ］P. 57-58
他者との関わりの中から自分の価値意識を再確認し、音楽の構造などを一層客観的に把握したり、音楽の味わいをより深めたりすることができる。p58
④B鑑賞の活動例（知覚と感受の関わり：p. 33）
「フルートによる第二主題が、クラリネットによる第一主題より軽やかに感じられるのは、主題を演奏する楽器の音色が変わって、音が高くなり、旋律のリズムも小刻みになったから」
「ドンドコドンドコというリズムと和太鼓の音色から、日本的で、踊り出したくなるような音楽だと感じる」
(2)B鑑賞「思考･判断･表現」
①観点の趣旨
要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに(共通事項ア)、B鑑賞ア(ア)曲や演奏に対する評価とその根拠(イ)生活や社会における音楽の意味や役割(ウ)

音楽表現の共通性や固有性の一つ以上について自分なりに考え(中 2･3 の場合：「考え」)、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。
②その授業で取りあげる要素が「構成」の例
構成(変化)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの役割について考えるとともに、演奏に対する評価やその根拠を考えて聴いている。

Ⅲ　小学校音楽科の評価観点の原則

１　A表現（歌唱）の場合

(1) A表現（歌唱）「知識及び技能」の知識の部分
①観点の趣旨（学年目標「知識及び技能」の前半）
曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。(小 5･6 の場合：理解している)
②評価規準：事項イについて理解する
・小 1･2 の場合：曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付いている。
・小 3･4 の場合：曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。
・小 5･6 の場合：曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。
③A表現（歌唱）「イ知識」の活動例
「動物がお話をしているような感じがするのは、旋律に呼びかけとこたえのようなところがあるから」p. 32 イ
「楽しい感じがするのは、歌詞の中にいろいろな動物の鳴き声が出てくるから」p. 32 イ
「のびやかで明るい感じになっているのは、同じリズムが繰り返されたり、となり合った音が続いている旋律の中で、時々上下に音が跳んでいて動きがあったりするから。また、歌詞に紅葉で色づいた木や山の様子が描かれているから」p. 60 イ
「おだやかで懐かしい感じになっているのは、同じリズムが繰り返されて滑らかな音の動きになっているから。また、歌詞にふるさとのことを思ったり懐かしんだりする気持ちが込められているから」p. 89 イ
(2) A表現（歌唱）「知識及び技能」の技能の部分
①観点の趣旨（学年目標「知識及び技能」の後半）
音楽表現を楽しむために必要な（小 3･4 及び小 5･6 の場合：表したい音楽表現をするために必要な）歌唱の技能を身に付けて、歌唱で表している。
②評価規準：事項ウの(ア)(イ)(ウ)から一つ以上について身に付ける。
・小 1･2 の場合：
(ア)範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする技能を身に付け、歌唱で表している。
(イ)自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。
(ウ)互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。
・小 3･4 の場合：
(ア)範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌う技能を身に付け、歌唱で表している。
(イ)呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付け、歌唱で表している。
(ウ)互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。
・小 5･6 の場合：
(ア)範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌う技能を身に付け、歌唱で表している。
(イ)呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付け、歌唱で表している。
(ウ)各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。
(3) A表現（歌唱）「思考･判断･表現」
①観点の趣旨
音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え(共通事項ア)、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。(小 3･4 及び小 5･6 の場合：思いや意図をもっている)
②その授業で取りあげる要素が「反復」「変化」の例
反復と変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。(小 3･4 及び小 5･6 の場合：思いや意図をもっている)
③A表現（歌唱）「ア思考力、判断力、表現力等」の活動例
「楽しくお話をしている感じが伝わるように歌いたい」p. 31 ア
「２羽の鳥が呼びかけ合いながら遠ざかっていく感じが伝わるように、強く、やや弱く、やや強く、弱く歌おう」p. 59 ア
「盛り上がるところは響きのある声で歌いたい。そのためには、３段目の最後のフレーズをだんだん強くして４段目の曲の山につなげよう」p. 88 ア

２　A表現（器楽）の場合

(1) A表現（器楽）「知識及び技能」の知識の部分
①観点の趣旨（学年目標「知識及び技能」の前半）
曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。(小 5･6 の場合：理解している)
②評価規準：事項イの(ア)(イ)のいずれか又は両方について理解する。

(ア)曲想と音楽の構造との関わりに気付いている。
(小5･6の場合：理解している)
(イ)小1･2の場合：楽器の音色と演奏の仕方との関わりについて気付いている。
(イ)小3･4の場合：楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付いている。
(イ)小5･6の場合：楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて理解している。
③A表現（器楽）「イ知識」の活動例
「はずんで楽しい感じがするのは、スキップのようなリズムが何度も出てくるから」p.38イ（ア）
「鍵盤ハーモニカは、息を速く吹き込んだときとゆっくり吹き込んだときとでは、音の感じが違う。ゆっくり吹き込むと優しい感じの音になる」p.39イ（イ）
「ゆったりした感じから弾んだ感じに変わったのは、途中からタッカのリズムが多くなったから」p.66 イ（ア）
「長胴太鼓は、ばちを上げずに軽く打ったときと、ばちを高くはね上げるようにして打ったときとでは、音色や響きが違う」p.67イ（イ）
「落ち着いた感じから明るい感じに変わったのは、低い音域で旋律が繰り返されている前半に比べて、後半は旋律の音域が高くなり、音の重なり方が少しずつ変化しているから」p.95イ（ア）
(2)A表現（器楽）「知識及び技能」の技能の部分
①観点の趣旨（学年目標「知識及び技能」の後半）
音楽表現を楽しむために必要な（小3･4及び小5･6の場合：表したい音楽表現をするために必要な）器楽の技能を身に付けて、器楽で表している。
②評価規準：事項ウの(ア)(イ)(ウ)から一つ以上について技能を身に付ける。
・小1･2の場合：
(ア)範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する技能を身に付けて、器楽で表している。
(イ)音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けて、器楽で表している。
(ウ)互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて、器楽で表している。
・小3･4の場合:
(ア)範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏する技能を身に付けて、器楽で表している。
(イ)音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けて、器楽で表している。
(ウ)互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて、器楽で表している。
・小5･6の場合:
(ア)範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能を身に付けて、器楽で表している。
(イ)音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けて、器楽で表している。
(ウ)互いの楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて、器楽で表している。
③A表現（器楽）「ウ技能」の活動例
「リコーダーの指導では、トゥやティ、ルゥ、トォなど、音の高さなどに応じたタンギングの仕方を身に付けるようにすることが考えられる」p.69 ウ（イ）
(3)A表現（器楽）「思考･判断･表現」
①観点の趣旨
音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え(共通事項ア)、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもっている。
(小3･4及び小5･6の場合:思いや意図をもっている)
②その授業で取りあげる要素が「フレーズ」の例
フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもっている。(小3･4、小5･6の場合:思いや意図をもっている)
③A表現（器楽）「ア思考力、判断力、表現力等」の活動例
「飛び跳ねるような元気な感じが伝わるように演奏したい」p.37ア
「前半の弾んだ感じと後半のゆったりした感じの違いを表したいから、前半はスタッカートで音を弾ませて演奏し、後半は一つ一つの音を滑らかにつないで演奏しよう」p.65ア
「主旋律と副次的な旋律が呼びかけ合ったり重なったりする面白さを伝えるために、主旋律が引き立つ強さで、副次的な旋律を演奏しよう」p.94ア
「主旋律と副次的な旋律との関わりを考えて楽器の組合わせを工夫することで、二つの旋律が呼びかけ合っていたり、重なったりする面白さがよく表れるようになったことを教師が具体的に伝える」p.95ア

3　A表現（音楽づくり）の場合

(1)A表現（音楽づくり）「知識及び技能」知識の部分
①観点の趣旨（学年目標「知識及び技能」の前半）
曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている（小5･6の場合：理解している）
②評価規準：事項イの(ア)(イ)のいずれか又は両方について理解する。
・小1･2の場合：
(ア)声や身の回りの様々な音の特徴に気付いている。
(イ)音やフレーズのつなげ方の特徴に気付いている。
・小3･4及び小5･6の場合：

(ア)いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴に気付いている。
(イ)音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴に気付いている。(小5･6の場合の文末：理解している)
③表現A（音楽づくり）「イ知識」の活動例
「タンブリンは、打ったり振ったりこすったりすると、音の高さ、長さ、音色が違って面白い」p. 45 イ（ア）
「同じリズム・パターンを繰り返していく中で、音色を変えていくと面白さが生まれる」p. 46 イ（イ）
「ウッドブロックとトライアングルを組み合わせると、音の高さや長さが違って面白い」p. 75 イ（ア）
「短い旋律を、呼びかけ合うようにつないでいくと面白さが生まれる」p. 75 イ（イ）
「木琴や鉄琴は、打つ強さを変えたり、音盤の打つ場所を変えたり、マレットの材質や硬さを変えたりすると、音色や響きが変化する」p. 96 イ（イ）
「トライアングルとツリーチャイムなど、同じ材質の打楽器を組み合わせると、響きがとけ合ってよくなる」p. 104 イ（ア）
「あるリズム・パターンを、変化させながらつなぐだけでなく、一人一人がずらしながら重ねると、やまびこのような感じがしてよさが生まれる」p. 105 イ（イ）
(2) A表現（音楽づくり）「知識及び技能」技能の部分
①観点の趣旨（学年目標「知識及び技能」の後半）
音楽表現を楽しむために必要な音楽づくりの技能を身に付けて、音楽づくりで表している。(または音楽をつくっている)
②評価規準：事項ウの技能を身に付ける
発想を生かした表現や、思いに合った表現（小3･4及び小5･6の場合：思いや意図に合った表現）をするために必要な次の（ア）及び（イ）の技能を身に付けて、音楽づくりで表している。
（ア）設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして（小3･4及び小5･6の場合：即興的に音を選択したり組み合わせたりして）表現する技能を身に付けて、音楽づくりで表している。
（イ）音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽（小3･4及び小5･6の場合：音楽）をつくる技能を身に付けて、音楽づくりで表している。
③A表現（音楽づくり）「ウ技能」の活動例
「体のいろいろな部分を手で打って出せる音を使い、友達と違う音を選んで順番にリレーのようにつなぐ」p. 47 ウ（ア）
「呼びかけとこたえを使い、一つの声部の呼びかけに、他の声部がこたえるように音楽をつくっていく」p. 47-48 ウ（イ）
「ソラシの三つの音を使い、一人一人が4拍で即興的に表現し、順番に旋律をつなぐ」p. 76 ウ（ア）
「反復と変化を使い、短いフレーズを反復させた後、変化させて、また最初の短いフレーズを反復させて音楽をつくっていく」p. 77 ウ（イ）
「木琴や鉄琴の演奏では、表したい思いや意図に合った音色になるようマレットで打つ強さに気を付けたり、リコーダーの演奏では、音域や表現方法にふさわしい息の吹き込み方やタンギングの仕方に気を付けたりするなど、音色や響きに応じた演奏の仕方を身に付けるようにする」p. 98 ウ（イ）
「同じ材質の楽器を用い、一人が即興的に表現した8拍のリズム・パターンを繰り返して打つ間、友達が二人、三人と新しいリズム・パターンを重ねていく」p. 105 ウ（ア）
「反復と音楽の縦と横との関係を使い、複数の声部で、最初の部分は同じリズム・パターンを反復させ、中間の部分では、同じリズム・パターンを4拍ずらして重ねるようにし、最後の部分は、再び最初のリズム・パターンを反復させてつくっていく」p. 106 ウ（イ）
(3) A表現（音楽づくり）「思考･判断･表現」
①観点の趣旨
・小1･2の場合：音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え(共通事項ア)、どのようにして音を音楽にしていくかについて思いをもっている。
・小3･4の場合：音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え(共通事項ア)、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。
・小5･6の場合：音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え(共通事項ア)、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。
②授業で取りあげる要素が「呼びかけとこたえ」の例
呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのようにしてまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いをもっている。(小3･4及び小5･6の場合：思いや意図をもっている)
③A表現（音楽づくり）「ア思考力､判断力､表現力等」の活動例
「手のひらと手のひら、手のひらと握りこぶしというように、手の打ち方を変えると面白くなる」p. 44 ア（ア）

「手の打ち方を変えることで、いろいろな音が生まれて面白い雰囲気になったことを教師が具体的に伝える」p. 44 ア（ア）
「同じリズムでお話をしているようなところと、違うリズムでお話をしているようなところをつくったので、面白い音楽になったことを教師が具体的に伝える」p. 44-45 ア（イ）
「自分の工夫した音と友達の工夫した音を交互に鳴らして、音で会話をすると面白くなる」p. 73 ア（ア）
「異なる響きで会話することで、音の響きの組合せが面白くなり、よい雰囲気になったことを教師が具体的に伝える」p. 73 ア（ア）
「木、金属、皮などの材質の物から生じるそれぞれの音の響きを基に、同じ材質の物から生じる音の響きだけでそろえて表現すると面白くなる」p. 102 ア（ア）
「遠くから来た動物の群れが近づいた後、走り去っていくような音楽にしたいので、一つの楽器で始めてからいくつかの楽器を徐々に重ね、中間の部分では、速度を速めて全員で音を出し、徐々に楽器を減らしながら弱くして、最後は一つの楽器で終わりたい」p. 103 ア（イ）

4　B鑑賞の場合
(1) B鑑賞「知識」
①観点の趣旨（学年目標「知識」）
　曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている(小 5･6 の場合：理解している)。
②評価規準：事項イについて気付いている（小 5･6 理解している)。
・小 1･2 の場合:曲想と音楽の構造との関わりについて気付いている。
・小 3･4 の場合:曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付いている。
・小 5･6:曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解している。
③B鑑賞「イ知識」の活動例
「楽しく感じるのは、カッコカッコと同じリズムを繰り返して打っているのに、時々リズムが変わったり、途中からチリリリリーンという音が入ったりするから」p. 51 イ
「堂々と行進する感じから、軽やかに踊っている感じに変わったのは、低い音の弦楽器の旋律と、高い音のフルートの旋律が交替で出てきたり、重なったりしているから」p. 80 イ
「ゆったりとしておだやかな感じから、動きのあるにぎやかな感じに変わったのは、尺八が旋律で箏が伴奏をしているような音楽が、真ん中では箏と尺八とが呼びかけてこたえているような音楽になっているから」p. 109 イ
(2) B鑑賞「思考･判断･表現」
①観点の趣旨
　音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え（共通事項ア）、曲や演奏の楽しさを見いだし（小 3･4 及び小 5･6 の場合：曲や演奏のよさなどを見いだし)、曲全体を味わって聴いている。
②その授業で取りあげる要素が「反復」「変化」の例
　反復及び変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見いだし（小 3･4 及び小 5･6 の場合：曲や演奏のよさなどを見いだし)、曲全体を味わって聴いている。
③B鑑賞「ア思考力、判断力、表現力等」の活動例
「この曲の楽しいところは、トランペットとバイオリンがリレーのように何回も出てくるところ」p. 50 ア
「この曲の一番面白いところは、真ん中で、たくさんの楽器が大きな音で激しい感じの旋律を演奏し、それが急に止まって最初に戻るところ」p. 79 ア
「この曲は、はじめと終わりに打楽器の激しいリズムと金管楽器の力強い旋律が繰り返される生き生きとした音楽で、聴いていると、自分も前向きに取り組もうという気持ちになれるから好きだ」p. 108 ア

　以上、小学校及び中学校音楽科の学習評価について資料に基づき整理した。授業計画や単元の内容、児童・生徒の実態に即してアレンジしながら、規準作成の際の一助にしてほしい。

［資料一覧］

(1) 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説音楽編』、東洋館出版社、2018
(2) 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説音楽編』、教育芸術社、2018
(3)「令和元年度小・中学校各教科等担当指導主事連絡協議会報告書、音楽＜小学校＞」、及び「同音楽＜中学校＞」、2019
(4) 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料・小学校・音楽』東洋館出版社、2020
(5) 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料・中学校・音楽』東洋館出版社、2020